

3 絹本著色楊柳観音像 1幅 [有形文化財（絵画）]

〔所在地〕 生駒市上町4442番地

〔所有者〕 円生院

〔法量〕 縦110.6cm 横54.7cm

〔時代〕 南宋～元時代

〔概要〕

長弓寺の塔頭の一つ円生院に伝わる楊柳観音像。水辺の岩の上で右膝をかかえて坐す観音、楊枝を挿した水瓶、懸崖から伸びる竹、蓮弁に乗って合掌する善財童子、龍などのモチーフは唐代の画家・周昉が創案したと伝えられる楊柳観音の図像に共通するもので、『華嚴経』「入法界品」において善財童子が補陀洛山を訪れて観音菩薩と対面する場面に典拠をもつ。

主要な図様を謹直な細線で描き、観音の肉身には白色、衣文線上には臙脂色の暈取りをほどこす。全体的に中間色を多用した柔らかく暖かみのある彩色が特徴的である。また、楊柳観音の図像としては珍しく布袋が表される他、布袋像の彩色が剥落した下に僧形像が二重に確認され、製作段階で図様の改変が行われたとみられることも注目される。

観音の面貌表現から元時代の作とみられているが、華奢な観音の姿や着衣の文様は古い表現であり、製作時期は南宋～元時代初期と推定される。県内に伝来する請来仏画は少なくないが、その中において本図は優れた作行きをとどめており、図像的にも珍しい特徴を有するものとして貴重である。

